

魂のコラム集

滋賀大学経済学部 近藤 豊将

現在担当中のミクロ経済学の副読教材として、独自にコラム集を編纂した。経済学に関係する短めの文章を集め、制約条件付き最適化、適材適所、外部性など、経済学の項目ごとに整理し直したものである。主として経済学者ではない人たちが書いた文章を集めている。

経済学者ではない人たちの文章を多く集めたのは、一流の人なら、経済学を勉強したことはなくても、自然に「経済学的思考法」を身に付けていることを示すためである。松下幸之助氏、稲盛和夫氏など、著名な経営者の書いた文章が多くなっているが、それは私の勤務先が旧高等商業学校だからである。抽象的になりがちなミクロ経済学の思考方法を、ビジネスの現場の感覚に触れながら理解するのに最適な教材だと自負している。

その作成方法に奇策はない。常日頃から、授業で利用することを念頭に置きながら様々な書籍を渉猟し、「これは！」という文章を見つけたら、コピーをとってファイルしておくのだ。夜中に良文を発見し、「忘れないうちに」とコピーに走ったことも一度や二度ではない。まさに、学生たちのために全身全霊を傾けて

仕上げた魂のコラム集なのである。

十月から始まる新学期に向けて、夏休み中に大学の学習支援室に印刷してもらい、SA（スタディー・アシスタント）の学生たちにいち早く配布した。特に感想を聞いたわけではないが、おそらく、あまりの素晴らしさに驚嘆していることだろう。タイトルは「知性と品格のコア・ミクロAコラム集」とした。第一級の知性ととともに、人としての品格をも同時に培ってほしいという願いからである。大学の公共のスペースに配置した。私の授業を履修している学生以外でも帰るようになっていくという心温まる配慮からである。学習支援室のスタッフの方々に、妙に真面目な張り紙を用意されてしまい（写真右）、やや気恥ずかしい思いをしたが、このエピソードも名作の完成に華を添える。愛嬌である。将来的には、出版社から哀願されベストセラーになるかもしれない。莫大となるであろう印税収入の使途についても、今から想を練っておく必要があるだろう。

ところがところが、いざ授業が始まり一か月以上経過しても、学生たちはあまり取りに来ない。学習支援室のスタッフの方からも、「いつまでもスペースをとるのは…」と苦言を呈される事態

となった。経済学的に考えると、秀逸しゅういつなコラム集を無料（価格ゼロ）で配布しているのだから全員から瞬間熱需されるはずなのに、一体どうしたことか。授業で「ここ（コラム集）から試験に出るわけではない」と言ってしまったせいなのか？

ある卒業生からは「当然の結果だ」と愚弄ぐろうされたが、たとえ試験には出なくても、タメになる内容なのだから理論的には需要は十分にあるはずなのだ。「マーケティング能力がない」とも言われたが、私は高尚こうしょうな理論経済学が専門であり、マーケティング

は門外漢もんがいかんなのだ。

結局、置き場だった公共スペースからは掃き出され、魂のコラム集は、私の研究室で在庫の山となり果てた（写真左）。その一部はゼミ生に強制的に引き取らせることにして処理したが、まだまだ不良債権は残っている。

私はまだ負けていない。ゼミ生にノルマを課して、無理やりキヤンパス内で配布させようかと企てくわたている。ロコミで人気があり、奴らが「やっぱりコラム集を読ませてください！」と哀願してきたとき、今度は一冊三千円ほどで買わせてあげようか？

（平成二十五年十一月九日）

